

教学 IR を活用した教育改善の事例紹介

大阪大谷大学 教育・学修支援センター

本学では、教育・学修支援センターおよび大学 IR 委員会を中心として、学生を対象とした基幹3調査（新入生調査・学修行動調査・卒業時調査）のほか、学業成績、汎用的能力を測定する外部業者によるアセスメントテストの結果等を分析し教学改善に資する取組を行ってきている。

以下、これまで継続して行なっている主要な取組を紹介する。

・授業評価アンケートによる授業改善

学生を対象とした授業評価アンケートを、少人数授業や学外実習を中心とする授業等を除いたすべての授業科目において実施している。授業評価アンケートの集計結果は担当教員にフィードバックするとともに、各教員からは授業ごとに現状分析と改善計画、学生からの自由記述による意見に対するコメントをまとめた「考察シート」が作成され、本学学生を対象として公表される。

アンケートの設問のうち、授業への満足度に関する評価（5件法で、評価の低い順に1～5で回答）の全学的な平均は以下のように推移しており、若干の増減はあるものの、この数年間は増加基調にあると言える。

年度・期	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
満足度の平均	4.20	4.22	4.30	4.32	4.28	4.36	4.35	4.38

・学修行動調査・アセスメントテスト(PROG)の結果による個別面談

毎年、全学部・全学年の学生を対象とした学修行動調査が行われ、学習時間等を調査するほか、成長実感のある能力・成長を期待する能力等について調査が行われている。アドバイザー教員は担当する学生の個々の回答結果から個別学修指導が行われる。

アセスメントテスト(PROG)についても、学生個々に測定された汎用的能力をもとに、学生自身が振り返りを行い、アドバイザー教員が、ディプロマ・ポリシーに定めた各能力と関係づけて、個別に学修指導が行われている。

これらの活動を通して、アドバイザー教員は学生の個々の学修状況や能力の把握しつつ助言を行うことで、学生は今後の学修計画の立案や目標設定を行なっている。

・GPA を活用した学生への個別指導体制の強化

学期 GPA が 1.5 未満である学生に対して、アドバイザー教員が個別に学修指導を行なっている。一方、本学 IR 委員会において過去数年間の 1 年次における学業成績とその後の中途退学との関係进行分析した結果、1 年次における GPA が学科・学年の平均値より 1.0 以上低い学生は中途退学がとりわけ多くなることが明らかになった。そこで、2024 年度より、学期 GPA が 1.5 未満である学生に加え、学期 GPA が学科・学年ごとの平均値よりも 1.0 以上低い学生も対象として、個別学修指導を行なっている。

以上